

4/8 春の陽気に包まれた昼下がり 創立117年目を迎える南宇和高校で入学式



愛媛
CATV
動画



▲117年の歴史ある南宇和高校に入学する83人の
新入生

4月8日(月)、緊張しつつも凛とした顔つきの83人が南宇和高校に入学しました。

清水幸一校長の式辞では、「時間を守り他の人の時間を尊重することで自分への信頼につながります。整理整頓を行い、心を磨くことで目配り気配りができるようになり、感謝の心が育ちます。挨拶や返事をするには心を開き、相手に迫るということです。気持ちの良い挨拶や返事から、良い人間関係が始まります。この基礎・基本を高校生活の中で、日々実践してください」と新入生に向けて言葉を送りました。

新入生代表は「新たな仲間と出会えた喜びを分かち合い、切磋琢磨し合っていくことを誓います」と力強く宣誓しました。

4/8・9 春の穏やかな日差しの中 町内各小中学校で入学式



▲慣れない式典に少し緊張しつつも、先生の話を一
生懸命聞く新1年生

4月8日(月)、町内の小学校で、4月9日(火)には町内の中学校で入学式が行われました。小学校では94人、中学校では115人の児童生徒が、期待に胸を膨らませ学校生活をスタートさせました。

保護者や在学児童、地域の方々が温かな拍手で新1年生を出迎えた平城小学校では、新入生34人が少し緊張した面持ちながらも、校長先生や来賓の方の話をしっかり聞いて元気よく返事をしていました。在学児童代表は「皆さんが入学してくるのを楽しみに待っていました。困ったことがあれば私たちに聞いてください。今日から私たちと仲良く楽しく頑張りましょう!」と新入学児童に向けて祝福の言葉を送りました。

4/12 ふるさとチョイス AWARD 2023 愛南ゴールド真鯛がチョイス事業者部門大賞を受賞



▲左から 大賞受賞を清水町長に笑顔で報告する濱
田嘉之社長、浅野希央さん、稲田若菜さん

ふるさとチョイス AWARD 2023 のチョイス事業者部門で(有)ハマスイと南宇和高校生で開発した「愛南ゴールド真鯛」が大賞を受賞しました。

チョイス事業者部門とは、ふるさと納税を通じて、事業者が主体となって地域のブランド力を高めたり、町の魅力づくりに貢献したりする取り組みを表彰する部門です。

4月12日(金)に役場本庁町長室で行った報告会で高校生は、「観客や審査員に愛南町について興味を持ってもらったと実感しています。自分は今年3年生で、高校生として活動できるのは1年間なので頑張っていきたい」と大会の感想やこれからの意気込みを述べました。



愛媛
CATV
動画

4/18・19 地元生産者あいなんマザーズから無償提供
学校給食で愛南町産かんきつを食べよう!



▲給食の時間に、デザートのかんきつをおいしそうに頬ばる平城小学校の6年生

町給食センターでは食育の日などにあわせて地産地消の取り組みを行っており、4月18日(木)の給食で愛南町産のかんきつ「はるか」、19日(金)には「愛南ゴールド」が登場しました。

18日(木)に提供された「はるか」は、地元生産者あいなんマザーズから「地元で採れたものは皆さんの体に一番合うものだと思います。地元のものをもっと好きになってほしい」との思いで無償提供を受けました。

「はるか」を夢中になって頬張った児童たちは、「レモンのような見た目だけど、とっても甘くておいしかった」「すごくおいしかったのでまた食べたい」など大好評で、「はるか」の爽やかな香りに包まれた教室にたくさんの笑顔が溢れました。

4/18 清水町長と情報共有を行い連携強化を図る
長谷川淳二政務官が被災状況確認のため愛南町を訪問



▲清水町長から被災状況について聞き取りを行う長谷川政務官

4月17日(木)に最大震度6弱を観測した愛南町の被災状況を確認するため、18日(木)総務省の長谷川淳二政務官が清水雅文町長と情報共有を行い連携強化を図りました。

清水町長から被災状況について聞き取りをした長谷川政務官は、「今のところ被害があまり出ていないと言うことで安心しましたが、余震の発生には引き続き警戒していただきたい」と話しました。続けて「政府として、迅速な被災状況の調査や余震に備えた警戒など、万全を期した体制を整えているので、何か心配なことや新たな被災状況が分かった場合には、いつでも連絡していただきたい」と支援体制について力強く述べました。

4/19 地域の消防・防災活動に貢献
愛南町消防団入退団式並びに辞令交付式



愛媛
CATV
動画



▲この日出席した9人の新入団員の皆さん
「先輩方のように有事の際には迅速な行動ができる団員になりたい」と抱負を述べた新入団員代表

地域の消防・防災活動の要である消防団の令和6年度愛南町消防団入退団式並びに辞令交付式が4月19日(金)に行われ、各方面隊の幹部や新入団員など約60人が出席しました。

令和6年度の新入団員は30人で、この日出席した9人の新入団員は坂本讓司団長から辞令書を受け取りました。

また、3月末日をもって退団した9人には長年の消防団活動に対し感謝状と記念品が贈られました。33年間にわたり消防団活動に励み消防団長も歴任した松岡増幸さんは、「今後も地域の消防・防災活動に貢献していきたいという気持ちです。後輩団員の皆さんには、引き続き町の安全安心のために尽力していただきたい」と期待を込めて述べました。

愛媛県消防防災ヘリコプターによる林野火災対応訓練を実施

3月10日(日)、南レク城辺球技広場にて、愛媛県消防防災航空隊と愛南町消防本部が合同で林野火災対応訓練を行いました。今回の訓練は町内で山火事等が発生した場合を想定し、迅速な救助・消火活動に必要な技術や知識を習熟させることを目的に実施しました。

訓練では、まず県消防防災航空隊の説明を受け、バーティカルストレッチャー（自力で動くことのできない要救助者を寝かせた状態で全身を包み込んで搬送、吊り上げ等ができる資機材）やエバックハーネス（要救助者を、イスに腰かけた状態に似た格好で固定し、吊り上げ等ができる資機材）の着脱訓練、消防車からの給水訓練が行われました。

資機材取り扱い訓練の後には、県消防防災ヘリコプター「Ehime21」が球技場上空から散水訓練を行いました。ヘリコプターの飛行に伴う強風の中、消防隊員たちは事前に確認した手順に従い、消防車から所定のバケツへの給水を行い、計6回の散水を実施しました。

訓練を通して救助に必要な資機材の使用方法や注意点を確認した隊員は、有事の際においては県消防防災航空隊と消防署がそれぞれの役割を理解し、連携しながら活動することの重要性を再認識しました。



愛媛
CATV
動画



地域おこし協力隊 活動日記

「大いに迷える仔羊より」

皆さんこんにちは農林課地域おこし協力隊の和氣邦夫です。愛南町に来てはや1年9カ月が過ぎました。はじめは、青果市場の分析をしながらいろいろと愛南町の皆さんの事を考えていたのですが、スムーズに物事が進まず悲観的になり、視野の狭いものとなってました。

そのことに気付いたのは、つい先日のこと。いつも何気なく見ている僧都の山の上にある風力発電の風車が7基あると思ってたんですが、何と8基もあったんです。あらゆる方向から物事を見る余裕がなくなっていると気付き、ウォーキングの友であるトンビ君のように物事も高いところから見て考えようと愛南町で一番高い篠山に登ってきました。



山頂から眺める愛南町は何と自然豊かでしょう。山海の産物は豊富にあり、ビジネスの可能性は考え方ひとつですよね。地域おこし協力隊の仕事を楽しめると確信することが出来ました。愛南町の人の役に立つために、いろんなことにチャレンジしていきますので皆さん応援してくださいね。

ピ〜ヒョロ〜